神奈川県
KANAGAWA

共感する場を創る

WORK SHOP REPORT 2024

令和６年度

舞台芸術活用青少年支援事業　報告書

神奈川県

はじめに

文化芸術が人にもたらす影響と、神奈川県立青少年センターの機能を連動させた本事業は今年で６年目を迎えました。

青少年サポート課とホール運営課による、ひきこもり・不登校等、社会生活に困難を有する方に向けた、演劇的な手法の活用により、「想い」を言葉で相手に届け、自身の意識変化を促すことを期待した本プログラムは、今年で 3 年目となりました。ひきこもり当事者やその支援者の方々を対象に、今年度は、昨年度に引き続き県央地区で 2 回、新たに湘南地区で２回、計 4 回実施し、支援者の方々の横の繋がり、市域を超えた連携の強化に取り組みました。

指導者育成課では、人間関係の構築に重きをおいて、子どもと関わる青少年指導員や、学校・団体で活動する指導者、支援者等を対象に、インプロビゼーション（即興劇）を活用した「場づくりに活かすインプロワークショップ」、「インプロ・ゲームワークショップ」、学童クラブの指導員等を対象に「子どもが喜ぶバルーンアート」を行いました。これらのスキルは、職場、学校などの現場で必要な、コミュニケーショントレーニングとなることが期待されます。

多様性の尊重、共生社会の実現に向けて、舞台芸術の表現方法を用いたワークショップ等を実施することで、参加者のコミュニケーション能力の向上を図り、ひきこもり当事者等の課題へ取り組む姿勢を生むきっかけとなることや、学校や団体で活動する支援員、指導員等の資質の向上に資することを願っています。

この企画にご尽力いただきました、アーティスト、団体のみなさま、参加者のみなさまに感謝を申し上げるとともに、この報告書が様々な企画等を考える際に少しでもお役に立てれば幸いです。

神奈川県文化スポーツ観光局文化課
舞台芸術プロデューサー 兼
神奈川県立青少年センター
紅葉坂ホール･スタジオ HIKARI 支配人
楫屋　一之

目次

はじめに …… p1

目次 …… p2

派遣アーティストプロフィール …… p3

REPORTS

Report 1　舞台芸術活用ワークショップ …… p 5

Report 2　場づくりに活かすインプロワークショップ …… p14

Report 3　インプロ・ゲームワークショップ …… p16

Report 4　子ども施設指導員セミナー・
子どもが喜ぶバルーンアート …… p22

派遣アーティストプロフィール

photo by manami tanaka

河井　朗（かわい　ほがら）

演出家・ルサンチカ主宰

大阪市出身。ルサンチカ（ressenchka）という舞台作品を作るカンパニーを主宰し、人を人たらしめているものは何かを問うために、戯曲を使ったり、人に話を聞いて構成した作品を上演する。

ここ数年は継続的に「理想の死に方」や「あの日について」等を人々にインタヴューしている。東京、京都を主な場所として活動する。

鈴木　聡之（すずき　さとし）

インプロパーク主宰

小学校教諭を退職後、高校や大学でも講師を歴任。インプロヴァイザーとして、インプロのワークショップを全国 27 都道府県で開催。即興劇のパフォーマーとしても活動している。

峰松　佳代（みねまつ　かよ）

役者、インプロ講師、

株式会社インプロジャパン・シニアトレーナー

日本大学芸術学部演劇学科卒業。幼少より映像・舞台分野で活動。2004 年よりインプロジャパンに所属し、現在では、国内外でインプロパフォーマーとして活躍する傍ら、企業から学校まで幅広い分野にて、インプロを活用したトレーニングの講師も務めている。

犬飼　亜希子（いぬかい　あきこ）

BalloonConnection 店長、バルーンデコレイター

カナダでバルーンを独学後、横浜市栄区を拠点にバルーンギフトショップとバルーン教室を経営。花やケーキのようにバルーンをプレゼントする文化の普及を目指し、バルーンデコレイターとして精力的に活動している。

Report 1

舞台芸術活用ワークショップ

１.概要

会場・日程

第１回　１月 10 日（金）　13:30～16:30
　海老名市立総合福祉会館 第１、２娯楽室
第２回　２月４日（火）　13:30～16:30
　大和市文化創造拠点シリウス 601 講習室
第３回　２月 28 日（金）　13:30～16:30
　ひらつか市民活動センター 会議室 A・B
第４回　３月７日（金）　13:30～16:30
　藤沢市民会館　第２展示集会ホール

事業の背景及び趣旨

ひきこもり・不登校等、社会生活を円滑に営む上での困難を有する方を対象に、舞台芸術の表現方法を活用したワークショップを実施することで、コミュニケーション能力の向上を図る。

主催

神奈川県立青少年センター

共催

（第１回、第２回）
厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市
（第３回、第４回）
平塚市、藤沢市、秦野市、伊勢原市、寒川町、
大磯町、二宮町

協力

（第３回、第４回）
茅ヶ崎市

参加人数

第１回　７名
第２回　13 名
第３回　14 名
第４回　11 名

担当者の開催意図

昨年度に引き続き、ひきこもりや不登校の当事者であり「生きづらさ」を感じている人たちが、舞台芸術の手法を通して自分の想いや経験を言葉で表現する体験をすることで、自身の意識に変化が起きることを期待して実施した。

令和５年度は新たな試みとして、県央地域の複数の市と共催することで、ひきこもり支援における市域を超えた広域連携の強化を図った。今年度も引き続き、県央地域で連携して開催するとともに、さらにその範囲を広げるべく、湘南地域の各市町との共催・協力により実施した。

派遣アーティスト

アーティスト
　…河井　朗（演出家・ルサンチカ主宰)
アシスタント
　…蒼乃　まを（俳優）
　　永井　茉梨奈（俳優）

２.ワークショップ内容

ワークショップ企画のポイント

昨年度に引き続き、県内の自治体と協働してワークショップを実施することとし、参加者の募集にあたっては、基本的に各自治体での支援に繋がっているひきこもり等当事者へ声をかけていただいた。そのため、開催前には派遣アーティストと共催市担当者を交えた打合せを行い、参加する当事者の特性等をふまえて配慮すべき点など、意見交換しながら準備を行った。

ワークショップの流れ

○導入

○ワークショップ開始

「あの日」を描く

「あの日」を想像して話す

グループワーク

発表

ワークショップの詳細

このワークショップは、参加者自身の思い浮かべる「あの日」について絵を描くことから始まる。「あの日」は参加者の過去の体験、印象に残っている物、記号、架空の出来事など、何でも良い。

その絵を会場内の好きな場所に貼り、展覧会風に見学をした後、それぞれが印象に残った絵についてあたかも自分が描いた絵のように説明をする。

「自称作者」が絵の説明をした後に、その絵を実際に描いた「本当の作者」が改めて絵の説明をする場面もあり、参加者は種明かしのような面白さを感じるとともに、「人によって同じ絵から読み取る内容がこんなにも違う」ということを体感した様子。

最後はグループに分かれ、選んだ絵を二次元（絵）から三次元に再現してみる「立ち上げ作業」を行った。

複数の絵を組み合わせてストーリーを作りだしたグループがあれば、特に印象的な１枚の絵から想像を膨らませて作品を完成させたグループもあり、多様な展開を見せていた。いずれも、講師やアシスタントのリードのもと、参加者それぞれが「自分に出来そう、やってみたい」役割を見つけながら取り組んでいた。

集まるメンバーや雰囲気によって、その日限りで生み出されるワークショップの面白さが表れていた。

３.アーティストレポート

本年度も神奈川県の依頼を受け、ひきこもり当事者を対象とした舞台芸術ワークショップを実施した。

ワークショップの流れ

【導入】

自己紹介、ワークショップの説明など。

参加者の自己紹介は、ストレッチで身体を動かしながら、講師からの「この地域のおすすめ情報は何ですか」等の気軽な質問に答える形で行われた。

【「あの日」を描く】

参加者それぞれが思い描く「あの日」で印象に残っていること・物・風景などを描く。

絵を描くことが苦手な参加者のために用意した「お助けアイテム」も絵の素材の一つとして大活躍。また、絵を描く際の参考にしてもらうため、絵の例をあらかじめ会場内に展示した。

【「あの日」を想像して話す】

気になった絵を選び、絵から想像した「あの日」を自分が作者であるかのように話す。講師がその絵について質問をするが、参加者はさらに想像を膨らませて答えていく。

2022年から始まったこのプロジェクトも今年で3年目となり、開催地域も昨年より拡大することとなった。自分たちの中にも僅かだが確かに積み重なった経験をもとにして、新たな視点からワークショップを考えることができた。

ワークショップの基本的な流れはこれまでと同様のものにした。参加者に「あの日」というテーマで絵を描いてもらい、それを会場内に展示・鑑賞した後、各々がお気に入りの絵を選び、その絵の作者として絵について語る（騙る）というものだ。

恥ずかしながら、これだけの回数を重ねてようやくワークショップの中身以外にも意識を向けることができた。新しい環境に飛び込んできてくださった参加者の皆様にとって居心地の良い環境を整えたいと思うようになった。その中で、今回は自己紹介に新しい取り組みを加えてみた。講師の永井さんに主導してもらい、軽いウォーミングアップを皆さんと共に行なった。手のひらを擦り合わせるところから始めて肩や首を温め、伸びをして拍手する。その後、参加者の皆様にもご自身の不調を抱えている体の部位を聞いて、そのポイントを揉んだり伸ばしたりしながら自己紹介をお願いした。これによって部屋にあった緊張の空気が緩むのを感じた。また名前も本名ではなく「呼んでほしい名前」を名乗ってもらうことにより、自分ではない何者かに「成る」という演劇の一つの仕組みを利用できたのではと思っている。

和やかな空気、発言しやすい空気を作ろうとする理由はこのワークショップの目的の一つに関わっている。ここでは普段と違うチャレンジをしてもらうことを目標の一つとしている。その中で、絵を描くことや、即興で話すこと、人前に立つ（舞台に乗る）ことなどに苦手意識を抱える人が多いのではないかという予想があった。対策のために昨年度は絵を描くためのお助けアイテムとして雑誌の切り抜きやシールなどが用意され、それを予想外の使い方で表現に用いてくださった参加者もいらっしゃった。今年度はウォーミングアップに加えて、支援者との連携を

【グループワーク】
２つのグループに分かれて、選んだ絵から想像した物語を講師と一緒に作品として作り上げる。

【発表】
完成した作品をグループごとに演じる。

より深いものにできないかと提案させていただいた。事前にワークショップの内容を支援者の方に検討してもらったり、ミーティングをさせていただいて参加者の方にどのような不安が発生する可能性があるかを共有してもらった。どの工程に不安があるのかを事前に知っておくことでアドバイスの伝え方や方法が変わってくるのでとても参考になった。さらにその情報を参考に当日の様子を見ながら昨年度よりも少人数のグループに分かれた状態で絵の偽の作者になって語ることをしてもらった。人数が少なくなったことによって人前で話すハードルを下げられたのではないかと感じている。

本ワークショップでは、演劇を完成させることは必ずしも重要なことだと考えておらず、参加者の多くが他者との関わりに慎重であることを踏まえ、「何かを作ること」よりも「一緒に時間を過ごすこと」に重きを置いた。私は、他人同士理解しあえなくても一緒にいられる可能性を考えてもらいたいと思っている。その面白さを演劇の「すれ違い」を用いて伝えているつもりだ。

演劇や小説などの物語が持つ「ドラマ」はすれ違いが生み出すと考えている。そのすれ違いは、人間が嘘を「信じる」ことができるからこそ生まれるのかもしれない。参加者が描いた絵に対して、別の参加者が自由に語る（騙る）ことで、本人が意図していなかった解釈が生まれる。そしてそれを聞く参加者はどちらも本当だと「信じる」ことになる。何を語るのか、何を良いと思うか、どの語りを信じるのかも自由で、そんなところに自分と相手の違いを見出す。その違いに距離を感じて相手との交流を断絶するのではなく、それも面白いなと思えることこそが共存のきっかけになるだろうと思う。どれだけ言葉を尽くしても人間はお互いに完全に理解しあえない。だからこそ、すれ違っていても、自分と違っても、それぞれがそれぞれでそこに居られることが重要なことだろう。

今回はあくまで、演劇的な手法を用いたワークショップだったが「演劇」に強い興味を持ち、何度も参加してくれた方もいらっしゃった。今後はもう少し段階を分けての開催の可能性も感じることができた。今と同じ強度のワークショップと同様に、テキストを用いてもう少し演劇の要素を増やしたワークショップなども検討できる。

また現在はワークショップの時間が 3 時間と限られているが、複数回の講座にすることによって、より丁寧にすれ違いを起こすことも可能になるだろう。また、その場限りでないという条件下で生まれる嘘の語りは同時に、その嘘を抱え続けていくという責任の話へと発展させることもできるため、より実践的な内容が含まれていくことになり、生活への反映がさせやすいのかもしれない。

それだけに留まらず、参加者だけでなく支援者にも演劇的な手法を実践してもらう機会を設けるなど、支援者との連携を深めることで、より持続的な影響を生む仕組みを作ることが可能だと考える。今後は、可能であれば支援者や関係機関と連携し、具体的な形（例えば展示の企画や、上演など、いろいろできることはあるかもしれない）を模索していきたい。

４.担当者の振り返り・次年度に向けて

昨年度に引き続き、県内自治体と協働する形で実施した。年度当初より、昨年度参加者から「またあのワークショップに参加したい」との要望が寄せられており、本事業の高い満足度が伺えた。

「あの日」ワークショップの実施は今回で３年目となったが、徐々にリピーター参加者が増えている。初めて参加した際には緊張でなかなか手を動かせず、発言も躊躇していた当事者の方が、回を追うごとに表情が柔らかくなり、積極的な発言も増えた。また、前回参加した時にうまくできなかったことや課題と感じたことを、自分なりの対策を考えて次の回で再チャレンジする参加者が数名見受けられた。そうした前向きな変化を感じられたのは、近い地域で複数

回開催したことの成果と思われる。

なお、昨年度より導入した「お助けアイテム」（絵を描くのが苦手な方のための、丸や星などの形に切った色紙や雑誌の切り抜きなど）も引き続き用意。参加者は思い思いに素材を活用し、個性あふれる作品が出来上がっていた。

また、講師やアシスタントからの、参加者に寄り添った声がけによって、発言が否定されない、安心して参加できる雰囲気が作られていた。今後も、少しでも参加者の緊張感を軽減できるような会場づくりを工夫していく。

当事者に同行して参加した支援者からは「当事者・支援者という垣根を超えて、楽しんで参加できた」との声があった。普段の関係性から一旦離れ、フラットに同じワークに取り組むことで、普段見られないお互いの表情が見られる点は、このワークショップの特徴と言える。引き続き、県内自治体や当事者の要望などもふまえながら、今後のワークショップ実施について検討していきたい。

５.参加者の感想

●ストーリーを自分で組み立てるのは難しかったですが、チャレンジできて良かったです。

●理由はわからないが、自分が今日思ったことを我慢せず話せた実感があった。

●絵を描くこと、鑑賞すること、嘘八百を並べてみること、皆で一つの嘘を作ってやってみること、どれも楽しかったです。一緒に参加した皆さんと講師の皆さんもすてきでした。

●絵を選ばれた時嬉しかった。演劇は足が震えた。こんな体験は日常では無いと思う。

●人それぞれの考えやアイデアがあり、人の数だけ考え方やものの捉え方があることが面白いなって思いました。

ワークショップ参加募集チラシ・表面（県央）

神奈川県
令和6年度　舞台芸術活用ワークショップ等青少年支援事業

海老名・大和開催

伝えたいことって何だろう？

舞台芸術ワークショップ参加者募集!!

あなた自身の言葉、届けるために

生きづらさを感じているあなたに…
舞台芸術の表現方法を活用したワークショップを開催します。
自分の思い描いたことが、他の人に正しく伝わらない、という体験を通じて、
どのように伝えたらいいのだろう、とみんなで話し合ったり、体で表現してみたりと、
楽しみながらそのヒントを一緒に見つけてみませんか。

令和7年

1/10（金）

13:30～16:30
海老名市総合福祉会館
1階　第1・2娯楽室
申込み締切り：12月27日（金）

2/4（火）

13:30～16:30
大和市文化創造拠点シリウス
6階　601講習室
申込み締切り：1月28日（火）

ワークショップ参加募集チラシ・裏面（県央）

募集内容

対象者：15歳以上の不登校やひきこもりの当事者・経験者など
※コミュニケーションに不安を抱える方

定　員：各回20名　（応募者多数の場合は抽選）

参加費：無料

申込方法

下記①～⑤を記載の上、
神奈川県立青少年センター 青少年サポート課
nposupport.440@pref.kanagawa.lg.jp
へメールでお申込みください。

① ご希望の日（どちらか、または両日）　※両日とも申し込むことができます
② 氏名
③ 年齢
④ 電話番号
⑤ 所属（所属団体、○○市居場所活用等。ない場合は記入不要）

メールが難しい場合は、電話での受付も可能です。
045－263－4479　（定休日：月曜日・年末年始）

講師プロフィール

河井　朗　（かわい　ほがら）

演出家。大阪府出身。
ルサンチカという舞台作品を作るカンパニーを主宰。
戯曲を上演したり人に話を聞いたりして作品を上演している。
ここ数年は、「理想の死に方」や「あの日」について、継続的に色々な人にインタヴューしている。

蒼乃　まを　（あおの　まを）

俳優。千葉県出身。大学では日本文学を専攻していた。
青年団に所属して活動。休みの日は、
博物館や美術館に行って暇を潰している。
まだ、将来やりたいことが決まっていない、
でも、何でもできる人になりたいので
何でもやってみようと思っている。

永井　茉梨奈　（ながい　まりな）

俳優。富山県出身。新国立劇場演劇研修12期修了。
大学在学時には、渡邊守章氏のもと
フランス演劇の研究・上演に携わる。
また、日本舞踊やふるさとの「おわら踊り」など、
地域に根ざした踊りと身体について楽しく学んでいる。

主催：神奈川県立青少年センター

共催：厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市

問合せ先：神奈川県立青少年センター　青少年サポート課
TEL　045－263－4479

2/28平塚、3/7藤沢でも開催！
詳しくはHPから
チェック→

ワークショップ参加募集チラシ・表面（湘南）

神奈川県
令和6年度　舞台芸術活用ワークショップ等青少年支援事業

平塚・藤沢開催

伝えたいことって何だろう？

舞台芸術ワークショップ参加者募集!!

あなた自身の言葉、届けるために

生きづらさを感じているあなたに…
舞台芸術の表現方法を活用したワークショップを開催します。
自分の思い描いたことが、他の人に正しく伝わらない、という体験を通じて、
どのように伝えたらいいのだろう、とみんなで話し合ったり、体で表現してみたりと、
楽しみながらそのヒントを一緒に見つけてみませんか。

令和7年

2/28（金）

13:30～16:30
ひらつか市民活動センター（2階）
会議室A・B
申込み締切り：2月21日（金）

3/7（金）

13:30～16:30
藤沢市民会館　会館棟1階
第2展示集会ホール
申込み締切り：2月28日（金）

ワークショップ参加募集チラシ・裏面（湘南）

募集内容

対象者：15歳以上の不登校やひきこもりの当事者・経験者など
※コミュニケーションに不安を抱える方

定　員：各回20名　（応募者多数の場合は抽選）

参加費：無料

申込方法

下記①～⑤を記載の上、
神奈川県立青少年センター 青少年サポート課
nposupport.440@pref.kanagawa.lg.jp
へメールでお申込みください。

① ご希望の日（どちらか、または両日）　※両日とも申し込むことができます
② 氏名
③ 年齢
④ 電話番号
⑤ 所属（所属団体、〇〇市居場所活用等。ない場合は記入不要）

メールが難しい場合は、電話での受付も可能です。
045－263－4479　（定休日：月曜日・年末年始）

講師プロフィール

河井　朗　（かわい　ほがら）

演出家。大阪府出身。
ルサンチカという舞台作品を作るカンパニーを主宰。
戯曲を上演したり人に話を聞いたりして作品を上演している。
ここ数年は、「理想の死に方」や「あの日」について、継続的に色々な人にインタヴューしている。

蒼乃　まを　（あおの　まを）

俳優。千葉県出身。大学では日本文学を専攻していた。
青年団に所属して活動。休みの日は、
博物館や美術館に行って暇を潰している。
まだ、将来やりたいことが決まっていない、
でも、何でもできる人になりたいので
何でもやってみようと思っている。

永井　茉梨奈　（ながい　まりな）

俳優。富山県出身。新国立劇場演劇研修12期修了。
大学在学時には、渡邊守章氏のもと
フランス演劇の研究・上演に携わる。
また、日本舞踊やふるさとの「おわら踊り」など、
地域に根ざした踊りと身体について楽しく学んでいる。

主催：神奈川県立青少年センター
共催：平塚市、藤沢市、秦野市、伊勢原市、
寒川町、大磯町、二宮町
協力：茅ヶ崎市

問合せ先：神奈川県立青少年センター　青少年サポート課
TEL　045－263－4479

1/10海老名、2/4大和でも開催！
詳しくはHPから
チェック→

Report 2
場づくりに活かすインプロワークショップ

１.概要

会場・日程

会場：厚木シティプラザ

日程：令和６年５月 26 日（日）

事業の背景及び趣旨

地域の青少年指導員を対象に、青少年指導員の活動について理解を深め、より充実した活動を実践することに役立つ研修を実施し、今後の青少年支援・育成活動の一助とする。

参加人数

青少年支援・指導者、行政職員等　22 名

担当者の開催意図

県央地区（厚木市・大和市・海老名市・座間市・愛川町）で活動する青少年指導員向けに毎年度行う研修である。今回は子どもたちと関わる青少年指導員に向けて指導員たちがそれぞれの活動の中で子どもたちとの場づくり、安心して楽しい活動を推進することができるよう企画した。

派遣アーティスト

アーティスト

…鈴木聡之（インプロパーク主宰、すぅさん）

アシスタント

…黒田めぐみ（JIPP インプロ情報局/大人のインプロ同好会、くろめぐ）

２.プログラム内容

プログラム内容のポイント

「インプロ」は事前の打ち合わせや､反復練習がなく、その場で「即興」で表現していくので、どんな表現をしても「間違い」ではない。どんなアイデアでも OK！「間違っている」というダメ出しをされない時間である。「正解」を探す必要はなく、どう表現するかは「自分で決めていい」時間なのだ(「自分で決めるしかない」時間とも言える)。その場で (即興で)「自分で決めた」表現は「上手くいかなくて」当たり前。「即興」での表現は「失敗」だらけ。そんな「失敗だらけの即興表現」を、互いに否定せず、受け止め合い、支え合って遊んでいく時間を積み重ねることで、誰もが「ここにいていい」と思える『場』が醸成されていく。

時系列プログラム内容

13:30　オリエンテーション

13:40　インプロワークショップ開幕

16:15　インプロワークショップ閉幕

16:20　まとめとふりかえり

16:30　解散

プログラムの詳細

「グーチョキパーアンケート」

「スケールライン」

「ネームサークル」「ネームコール」

「ミャンマーゲーム」

「名前手裏剣」

「ゾンビゲーム」

「変身ごっこ」「ナイフとフォーク」「写真の人」

「名作写真」

「物語当て」

「アジャジャオジャジャ」

「アイアムゲーム」

「何やってるの？」

「バーン」

３.アーティストレポート

プログラムのねらい

子どもたちと『場づくり』する時に大切にしている６つのポイント

（１）子どもたちの「今」を感じ取り、向き合う（先入観を棄てる）

（２）全員の存在を大切にする（成果主義との訣別）

（３）どんな表現もＯＫ（多様性を認め合う）

（４）失敗だらけのチャレンジを支え合う（失敗も楽しむ）

（５）フィクションの世界で思いっきり表現を楽しむ（架空の世界にいざなう）

（６）一緒に「つくる」（協働・創造）

誰もがここに居ていいと思える場づくりのためにすべてのプログラムにおいて OK メッセージが付与されている。即興での表現に間違いはない。＝どんな表現も否定しないということが参加者たちの間で共通理解として生まれ育っていく。子どもたちとのやり取りであっても同様で、例えば新たな表現に挑戦しても OK、挑戦しなくても OK とすることで自分なりのペースで表現を進めていくことができる。

実際のプログラムの様子

参加者たちはすぅさんの丁寧な説明に耳を傾け、どのゲームにも笑顔で参加していた。はじめは気分を答えたり、名前を呼んだりして少し緊張もあったが、全員で輪になり「ミャンマー」と声を出していくゲームでは失敗も多く全員が笑っている様子が伺えた。また、後半へ向かうにつれ、「変身ごっこ」「名作写真」「物語当て」など大きく体を使って表現することが増えてきた。しっかりとアイスブレイクできていた参加者たちは自分なりの表現を考え取り組むことができていた。「アジャジャオジャジャ」はペアになり、席を譲ってほしい人はアジャジャと言い、席に座っている人はオジャジャと言う。心が動き席を譲ってもいいと思えたら交代といったゲームであった。表現を使ったゲームとしては特に盛りあがり、言葉を使うことができないので表情や抑揚、身体の動きにも注目が集まった。

すぅさんとくろめぐの何やってるの？

アジャジャオジャジャ　席譲って～

バーン！　タイミングよくみんなで手を挙げていく

参加者へのメッセージ

インプロは即興という言葉を意味するインプロビゼーションの略語だが、即興演劇だけにとどまるものではない。表現全般に応用することができ、学校や青少年活動においても大きくその力を発揮する。誰もがここにいいてよいと思える、そんな場は居心地がよく、安心して何でもできるのではないだろうか。

Report 3
インプロ・ゲームワークショップ

１.概要

会場・日程

会場：神奈川県立青少年センター３階　研修室１

日程：令和６年８月 20 日（火）

事業の背景及び趣旨

インプロビゼーション（即興劇）のアクティビティ体験を通じ、学校及び団体で活動する指導者・支援者のコミュニケーションスキルの向上を図るとともに、多様性への理解を深めることで、共生社会の実現に向けた取組みの推進を担う支援者・指導者の資質の向上に役立てる。

参加人数

支援・指導者、教員、学生等　11 名

担当者の開催意図

ともに生きる社会の根底には、個々の良好なコミュニケーションが欠かせない。アイスブレイキングやチームビルディングに活用できるインプロ・ゲームのワークショップという構成で、子どもと関わる若い世代がコミュニケーションについて改めて考え、成長を実感できるよう本研修を企画した。

派遣アーティスト

アーティスト

…峰松佳代

（株式会社インプロジャパン）

アシスタント

…中村　太郎

（株式会社インプロジャパン））

２.プログラム内容

プログラム内容のポイント

インプロアクティビティの体験の中で、相手の意見を一度受け入れ、そこに自分の意見をプラスする「YES　AND」の考え方から気づきを促す。

また、ショートレクチャーを挟み、今後のコミュニケーションについてより深く考えるためのヒントを提供する。

時系列プログラム内容

9:30　受付開始、講師来所

10:00　オリエンテーション

10:10　インプロシンキングワークショップ

12:00　休憩

13:00　インプロシンキングワークショップ

15:50　チーム対抗インプロ

16:15　まとめとふりかえり

16:30　解散

プログラムの詳細

アクティビティ体験は、受講者間の関係性の構築から始まり、徐々に頭脳と身体をフル回転させていく構成とされた。受講者はインプロシンキングを直感的に体験し、節目で講師によって感情が言語化され、気づきを得る。受講者の得た気づきとして、主に３点が挙げられる。

（1）発信と受信

コミュニケーションは発信と受信で成り立つが、発信側、受信側にそれぞれ必要な態度がある。普段日常的に意識することがないコミュニケーションそのものを丁寧に再確認することは、現場で子どもや若者を支援する上で大きな意味がある。

特に互いの尊重に基づく関係を構築できる自己紹介のアクティビティは、チームビルディングの最初の一歩として多様な現場で取り入れることができる。子どもや若者の活動は自己紹介を行う機会が多いからこそ、活用が期待される。

（2）2つの「リーダー」

集団の中には「LEADER」と「READER」の２つが存在する。積極的に方向性を示し、能動的に関わる「LEADER」と、場の流れを読み、受動的に関わる「READER」である。

一般的に LEADER が注目されがちではあるが、受講者はアクティビティの中で READER の働きも大切だということに気づいていく。普段は「R」だという自己認識を持ちながら、場に応じてどちらにもなれる感覚を得たと自信を語る受講者、また場をともに創る他者への信頼を語る姿などもみられた。

（3）YES AND

発信する立場の時、発言を全て否定される場合はもちろん、反対に全てを受け入れられても、コミュニケーションは続かない。インプロシンキングの関わりは、相手を一度受け入れて、そこに自らの表現をプラスする「YES AND」で成立する。これを生かしてコミュニケーションのトレーニングが展開される。

アクティビティの中でその働きを体験することで、受講者は日常のコミュニケーションのヒントを得ていたほか、子どもや若者向けに持ち帰って実践したいという意欲も語られた。事後のアンケートでは、「受け入れたものを否定せずに肯定で返すと互いの気持ちが良くなるし　場が明るくなれる実感を今日体験できてよかったです。」、「最初は初対面の人の前で即興をすることに抵抗があったが温かい目で許してくれて、自分の思いついたことを表現していい空間がとても居心地が良かった。私も、将来教育の仕事に携わりたいので、その際は子どもが教室で居心地のいい空間を作れるように今日の体験を活かしていきたい。」といった肯定的な反応が示された。

３.アーティストレポート

プログラムのねらい

地域で子どもや若者に関わる活動をしている若手の支援者及び指導者を対象に、関わりのヒントとなる内容のワークをご依頼いただいたことを受け、ご参加の皆様に、インプロ（即興劇）の手法を通じて、「今」を受け入れ、共演者と変化を一緒に物語や劇を創り上げる、共創の楽しさと喜びを体験いただくプログラムを準備した。変化が激しく先が予測不能な VUCA の時代。また、インクルーシブ教育が求められる現代。思い込み、固定概念から解き放たれ、「今」から新たな創造をする力は不可欠であり、インプロの体験を通じて、共創を楽しむ中で、自らのコミュニケーションに気づき、今後の前向きな行動変容へのきっかけとなる場になることを目的とした。

実際のプログラムの様子

人数が少なかったことも功を奏し、開始当初から一体感ある空間でワークが進んだ。また、受講者の講座への関心・参画意識が高く、開始時のインプロデモンストレーションを真剣に観る姿勢が見受けられ、観劇からの気づきについても、その発言から感度の高さが感じられた。開始当初は、他者の様子を伺いながら動く姿も見られたが、場に集中するようになってきてからは、徐々に挑戦する姿が見受けられた。比較的、ゲームをやることに慣れている方が多く、どれも楽しんでやってくださっていたが、それだけに発信受信やアクション回しなど一見簡単なゲームにお

いては、ゲームに目的がいき、コミュニケーションとしてのキャッチボールがおざなりになる場面もあったのだが、都度、インプロ的関わりについて話すことで、吸収力の高さから、ゲームが進むにつれて丁寧なキャッチボールが見られるようになった。受講者の特徴としてもう一つ上げられるのが想像力の豊かさである。イエスアンドでの冒険の場面では、見えないものを想像し共有を楽しむ場面が多く見られた。後半のワンワードでの物語づくりや最後の発表会では、その力が後押しし、互いのアイデアを活かし合うストーリーやチーム一体となった作品が生まれていた。最後の振り返りからは、チームでの共創がそれぞれに自信や多くの気づきを与えていたように思われる。

参加者へのメッセージ

このたびは、インプロ・ワークショップをご受講いただき、有難うございました。

インプロ体験が、皆さんの日常生活に新たな彩りをもたらしていましたら嬉しいです。

皆さんとつくった「音楽が嫌いな王様」のお話、「クフド王が眠っていたピラミッド」のお話。

いまだに、その時の画を鮮明に覚えています。それは、皆さんが心豊かに関わり、想像力をイエスアンドされていたからこそです。また、最後の振り返りも、お一人おひとりがそれぞれの言葉で感じたこと、気づいたことをお話しくださったことも忘れられません。語る内容は個々に違いましたが、共通していたことは「イエスアンドされると安心して挑戦できる」ということだったように、私は感じています。是非、皆さんが、ご一緒にご受講された方々からもらった「イエスアンド」の安心感を子ども達にも与えてあげてください。子ども達はきっと可能性のとびらをどんどん開いて、大きく自由に羽ばたいてくれることと思います。皆様のご活躍を心からお祈りしております。またお会いする日まで。有難うございました！

インプロシンキングワークショップ

言葉に加えるアイコンタクトと握手のノンバーバルコミュニケーションが、みんなの距離を縮めていく

「ナイフとフォーク」のひとコマ。みんなで協力して綺麗に出来上がった、この形はいかに…！？

そう言われると見えてくる、見えてくる…！想像力が、お互いを無数の景色として創り上げる「ひらめきリレー」

それぞれの現場に帰っていく参加者に、実際の活用に向けインプロシンキングの要点を確認

全身でインプロを体験した心地よい疲労感とともに、今日１日をふりかえり、これからを語り合う

４.担当者の振り返り・次年度に向けて

昨年に引き続き、インプロを通じてコミュニケーションスキルの向上を図る、貴重な機会を設定することができた。研修指導の経験が豊富な講師に、現場での取り組みを最優先に考えていただき、また参加者の参加者の状況に応じて、アクティビティや難易度を臨機応変に調整していただいた。そのお陰で、全ての参加者にとって達成感の大きなプログラム構成となっていた。

参加者の立場に立つと、インプロ・ゲームの体験を通じ、子ども、若者との活動にアクティビティを取り入れるイメージを持つことができたが、それ以上にインプロシンキングを体感することでコミュニケーションのあり方を考える機会となったことが大きい。ある参加者とは、休憩時間内にも関わらず「子どもたちのコントロールを避けたいと思いつつ、安全管理の面でついしてしまうことをどう考えるかだよね」、あるいは「子どもたちに自主的に進めてほしいと思ってＬのリーダーの子に任せる、ということを大人はやりがちではあるが、他の子にとっては本当に任されていることになるんだろうか」、といった内容について突っ込んで意見交換することができた。答えはない内容だが、こういった気づきが得られたのもこの事業ならではの効果だったと言える。

ふりかえりでの参加者の発言からは、それぞれが学びを深めている様子がみられ、事後のアンケートでも研修の事前の期待度、事後の満足度もともに 100 パーセントとなり、事業全般が効果的な内容であったことを示している。

課題は参加を働きかける広報の部分で、対象にとって参加の最初の障壁である「演劇」という見え方、そして地域活動にどのように役立つのかという売り方、さらに他の日程との兼ね合い、この３点を乗り越えられれば、より効果的に事業を進めることができる。言語化が難しい経験してわかる「よさ」だからこそ、広報の方法をどうするかについては今後課内で議論を深めたい。

ワークショップ参加募集チラシ・表面

ワークショップ参加募集チラシ・裏面

インプロ・ゲーム ワークショップ

ひらめく、つながる、心、ときめく

インプロビゼーション(即興劇)のアクティビティを
体験し、学校や団体で活動する支援者・指導者の
コミュニケーションスキルの向上を図る講座です。

【昨年の参加者の声】

・普段、体を使った表現よりも言葉で理解させる表現を多くつかっているが、実は体を使った表現の方が豊かな理解をうむのかもと感じました。
・室内で少人数でも出来そうなので関わる子どもとやってみたい。

＃子ども・若者と接していると、予想外のことだらけで、もう大慌て。
でもそれがドラマチックで、楽しくて。
だからまたやりたいなって思うんです。
考えてみれば、私たちはいつもその場に合わせて行動します。
そう、それはまさに＃即興。

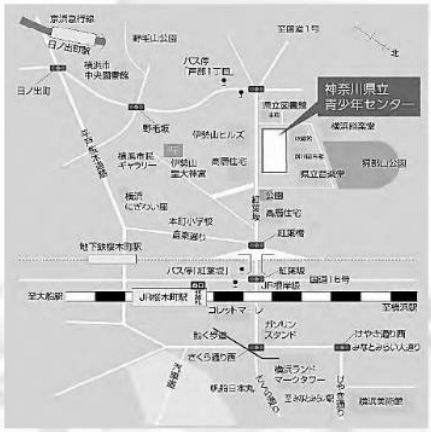
「＃即興劇」という、芸術のジャンルがあります。
それは、その場、瞬間の役者の＃ひらめきで、物語が進んでいく手法。
ひらめきが繋がっていくスペクタルなスタイル。

この事業は、アイスブレイキングにも使われるインプロ・ゲームの
アクティビティなど、＃入門的な内容を体験しつつ、はっと気が
ついたら＃コミュニケーションスキルが高まっている(！)ことを
期待したよくばりプログラムです。
そう、実は＃コミュニケーションって練習できるんです！
＃人間関係づくり、＃チームビルディングの体験は、きっと
＃多様性や＃支援教育に通じる大切なことを教えてくれるはず。

ぜひご応募ください。
この日のひらめきが、みなさんにとって
明日の即興を待ちわびる、ときめきとなりますように。

【講 師】 **峰松 佳代 氏**

(株)インプロジャパン シニア・トレーナー
日本大学芸術学部演劇学科卒業。幼少より映像・舞台分野で活動。2004 年よりインプロジャパンに所属し、現在では、国内外でインプロパフォーマーとして活躍する傍ら、企業から学校まで幅広い分野において、インプロを活用したトレーニングの講師も務めている。



【主 催】 神奈川県立青少年センター指導者育成課

【日 時】 令和6年 8月 20日(火)10:00～16:30
(受付 9:30 開始)

【会 場】 県立青少年センター3 階 研修室1

【対 象】 次のいずれかを対象とします。

① 現在子どもと関わっている、または関わることに興味がある中学生以上の若者

② 学校や団体等で青少年育成に携わる若手(概ね 30 歳未満)の職員

【〆 切】 令和6年 8月6日(火)

【定 員】 20 名程度

【費 用】 無料

【持ち物】 昼食、動きやすい服装、筆記用具

【申込み】 ウェブページから、電子申請システムでお申込みください。

① 8 月6日(火)に応募を締め切り、応募者多数の場合は抽選をし、申込者全員に連絡いたします。
② 抽選にあたっては、当選事業に初めて参加される方を優先いたします。締切り後に空席がある場合には、順次先着順で受け付けます。

問合せ先
神奈川県立青少年センター 指導者育成課
(横浜市西区紅葉ケ丘9－1)
TEL: 045－263－4466(直通) 8:30～17:15(月曜休館)

インプロ・ゲーム ワークショップ

Report 4
子ども施設指導員セミナー・子どもが喜ぶバルーンアート

１.概要

会場・日程

会場：鎌倉市玉縄青少年会館
　　小田原合同庁舎
日程：令和６年６月 25 日（火）・
　　10 月 18 日（金）

事業の背景及び趣旨

学童クラブ・児童館等の子ども施設は地域に数多くあるが、指導員に対する研修の機会はあまり多くはない。そのため、現場で活用できるスキルを学べるよう、これまで様々なテーマでセミナーを企画してきた。

子ども施設では、季節に合わせた壁面装飾やイベント等で飾りつけをする機会は多い。今回は、飾ってもプレゼントしても喜ばれるバルーンアートの基本スキルを身につけることができるよう本セミナーを企画した。

できるだけ広域の対象者に機会を提供するために、県内２会場でほぼ同一の内容で実施した。

参加人数　　計　49 名

第１回鎌倉市会場　：27 名
第２回小田原市会場：22 名

担当者の開催意図

バルーンアートは、経験の無い人が道具を揃えて解説書を読みながら挑戦するにはハードルが高いという印象を持つ人が多い。しかし一度基本のスキルさえ身につけることができれば、その後は解説書やインターネット上の情報を元に作品のレパートリーを増やすことができる。また、「剣」や「犬」のような子どもにプレゼントすると喜ばれる作品だけでなく装飾向きの作品も覚えることで、お誕生日会やクリスマス会等のイベントの飾りつけに役立つなど活用の幅は広い。ぜひ指導員の方々にバルーンアートのスキルを身につけてほしいと考え、初心者向けのセミナーを開催した。

派遣アーティスト

…犬飼　亜希子
（BalloonConnection）

２.プログラム内容

プログラム内容のポイント

バルーンアートの基本を学びながら実際にいくつかの代表的な作品を作ることで、バルーンの扱いに慣れ、バルーンアートを作る楽しさを実感してもらった。そのほか季節に合わせた作品も紹介してもらうことで、現場ですぐに活用できる内容となった。また、指導員が作る場面だけでなく、子どもが作るのを指導する場面を想定し、低学年の児童にはどのような補助が適切か、といったポイントもレクチャーしていただいた。

時系列プログラム内容

9:00	会場準備
9:30	受付開始、講師来所
10:00	オリエンテーション
10:10	バルーンアート体験
12:50	諸連絡
13:00	解散

プログラムの詳細

●バルーンアート体験「犬」「剣」「花」

●季節のバルーンアート

夏「ひまわり」

秋「かぼちゃ」

３.アーティストレポート

プログラムのねらい

バルーンアーティストとしてお仕事をして25年になります。私は、カナダでバルーンに出会いました。カナダでは、バルーンは生活に密着した文化だと感じ、日本で広めることができないかと思いました。

バルーンには人を笑顔にする力があります。お誕生日、結婚式だけでなくもっと身近にバルーンを使って欲しい、日本でもバルーンを日常に取り入れて皆さんに笑顔になっていただきたい気持ちでこのお仕事をはじめました。

バルーンアートでは、作っている最中バルーンの形が変わる、細長い 1 本の長いバルーンが犬に変わっていく様子を見てもらう、ショーアップする要素があります。

今回、お子さんと触れ合うお仕事の皆さんは、バルーンアートは、お仕事のスキルの武器にもなると思っています。

プログラムの結果、気づき・所感

今回お集まりいただきました皆さんにとって、バルーンは、お仕事に直結した技術です。皆さんそれを感じてくださってか、すごく集中して取り組んでいただきましたので上達の早い方が多く驚きました。バルーンは 1 つ数十円で、あとはポンプ、プラスして今日習っていただいた技術があればすぐに活かしていただけるのではないかと思います。

お子さんに関わる職場では季節の行事もたくさんあると思います。バルーンは、ピンクだと春のイメージ、黄色やオレンジは夏のイメージ。海は青を想像したり、母の日はカーネーションの赤をイメージしたりなど、色を使い分けることによって季節や場所やイベントを表現できると思いますし、その表現方法は参加した皆さん次第だと思います。

バルーンはどこで買えるのか、ポンプはどのメーカーが良いのかなどの具体的な質問もいただき、皆さんすぐに活用するイメージをお持ちなのではないかと思い嬉しく感じました。

参加者へのメッセージ

バルーンアートは、形が変わる（自分で変えられる）、色が豊富、ということでお子さんだけでなく脳に刺激をあたえる、脳トレになると言われています。

実際に私のところに大学教授が習いに来てくださって、バルーンの色と形の変化を見たり、触ったりすることがどのように脳に良い影響与えるか研究されている方もいらっしゃったくらいです。

何よりバルーンは、人々を笑顔にする不思議な力を持っています。完成してでき上がったバルーンを飾るのも素敵ですし、作っている工程をお子さんに見ていただいたり、触ってもらったり、もちろん一緒に作ったりすることもすごく喜ばれます。

ぜひバルーンと皆さんの技術を使ってたくさんのお子さんを笑顔にしていただけたら嬉しいです。

４.担当者の振り返り・次年度に向けて

バルーンアートの研修を実施したいという想いは以前からあったもののなかなか講師が見つからず数年経っていたところ、今回犬飼亜希子氏に出会い、本セミナーの指導を引き受けていただくことができた。事前の打ち合わせでは講師の営むバルーンショップへお伺いしたが、カラフルなバルーンに囲まれた空

間にとてもわくわくした。この、バルーンが持つ“人をわくわくさせる力”を使いこなせるようになれば、子ども施設でも、それ以外の場所でも、様々な場面で楽しく活かすことができるだろうと改めて感じた。

当日は「バルーンアートに挑戦するのは初めて」という参加者が多いなか、空気の入れ方やバルーンの口の結び方から丁寧に解説してもらえたことで、バルーンの扱いに苦手意識を持っていた参加者も少しずつ慣れながら取り組んでいる様子が見られた。どの作品でも、一通り作り方を教わった後にある程度の自由時間があり、２個目、３個目を作って完成度を上げていく参加者もいれば、完成した作品に目や模様を描き入れて楽しむ参加者もいた。作品の作り方は講師が作る様子を動画で撮影する時間を設けることで、文字や図の解説よりもわかりやすい記録となっていた。

工作系のセミナーを実施する際は事前の物品購入や人数分の道具・材料の準備が運営面での負担となることが多い。しかし、今回は講師自身がバルーンショップを経営しているためバルーンの準備・購入も一括して講師にお願いすることができ、当日までスムーズな流れで実施することができた。

次年度バルーンアートをテーマにセミナーを実施する場合には、よりステップアップした作品に挑戦するか、再度初心者向けの内容で新しい人に挑戦してもらうか、開催時期等に合わせて検討したい。

子どもが喜ぶバルーンアート

好きな色のバルーンを膨らませて、バルーンアートにチャレンジ！

初心者でもこんなに素敵な作品ができました☆

最後は全員で記念撮影

５.参加者の感想

●とても楽しかったです。初めての体験でドキドキしながら作りましたが、思っていたよりスムーズに作ることができました。先生の教え方が上手だったからだと思います。　また、子どもへの教え方も丁寧に教えていただき、夏休みにさっそくできそうです。ありがとうございました。

●非常に楽しく、気持ちよく講義を受けることができました。バルーンアートへの興味もわき、無知故の遠ざけ感もなくなったので、今後は自身で調べてみて職場でも活かしてみたいと思います。

●バルーンアートに前から興味があり、職場の人が前に受けたのをみて　機会があれば受けたいと思っていました。学童で働いているので室内の飾り付けや子どもたちと一緒に作ったりして楽しめたらと思います。　楽しい時間を　ありがとうございました。夏休みなど直接学童に来て頂き子どもたちに教えてほしいな…と思いました…　ありがとうございました。

●初めてバルーンアートを体験させていただきました。なかなかない機会だったので私も楽しませていただきましたし、子どもたちの喜ぶ顔も楽しみです。ありがとうございました。

●このような研修が無かったら身につけるコトが出来ない分野だったので参加できて本当によかったです。先生の作る工程を動画記録させて頂けたので、職場でもしっかり伝授出来そうです。ありがとうございました。

ワークショップ参加募集チラシ　表面

令和６年度子ども施設指導員セミナー第１回

子どもが喜ぶ バルーンアート

初心者向け講座です

「イベントを行うときに飾り付けをもうちょっと華やかにしたい」
「イベントで子どもに喜んでほしい」
一度覚えれば、少ない準備で出来る　”見てすごい”
”もらって嬉しい”　バルーンアートを学びます。

【日時】令和6年 **6月25日**（火）10：00～13：00（9：30受付開始）

【会場】玉縄青少年会館3F 集会室（鎌倉市玉縄 1-2-1）

【服装・持ち物】

- **名札**（所属でお使いのものがあれば）
- **はさみ**
- **作品持ち帰り用の大きな袋**
- **油性ボールペン**（動物をつくった場合目や口を書きます）

【講師】Balloonconnection 犬飼亜希子氏

【対象・定員】子ども施設（児童館等）及び類似施設の指導員　30名

【昼食】昼食時間は設けておりません。昼食はセミナー終了後にお取りください。

【申込方法】**各市町村主管課にお申し込みください。**
《各市町村によって締切日が異なります》

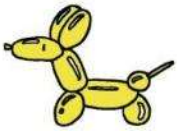
ワークショップ参加募集チラシ　裏面

令和６年度子ども施設指導員セミナー第１回

【講師プロフィール】

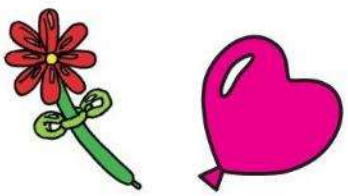
犬飼　亜希子氏

横浜市にバルーンショップを構えバルーンギフトやバルーン電報等さまざまなバルーンを販売するほか、バルーンアートのマンツーマン教室や出張スクールを開催している。



【会場案内】玉縄青少年会館
（大船駅より徒歩約 10 分）

大船駅南改札を出て西口（大船観音側）へ進みます。
道路へ降りずに歩道橋を進むと、坂のふもとの交差点に出ます。栄光学園へ続く坂道を上ると、その途中に青少年会館があります。



共感する場を創る

令和６年度　舞台芸術活用青少年支援事業報告書
編集・発行　神奈川県立青少年センター
〒220-0044
横浜市西区紅葉ケ丘９番地の１
電話:045-263-4400(代表)

発行日　令和７年３月

神奈川県

県立青少年センター
〒220-0044 横浜市西区紅葉ケ丘９番地の１
電話(045)263-4400